

## 「国境を越える経済統合、ジョホール・シンガポール特別経済区（JS-SEZ）その1」



周辺アジア各国も含め、数多くの市場・企業など調査業務実績を持つ。グループ会社の Crossborder Pte Ltd と二人三脚で、日本企業の M&A、現地パートナーシップ構築を準備段階である川上の調査から実施段階である川下のコンサルティング／アドバイザーまでのサービスを提供。高い情報収集能力で企業の商談、進出、会社運営をきめ細かくサポート。

2025年1月7日、マレーシアとシンガポールの両政府は、ジョホール・シンガポール経済特別区（JS-SEZ）の設立に関して最終合意に至りました。JS-SEZは、シンガポールと国境を接するマレーシア・ジョホール州の3,588平方キロメートルにわたる地域に設立される経済特別区であり、両国間における人や貨物の円滑な移動、投資環境の整備を通じて、国境を越えた一つの経済圏としての共同開発を進めていく取り組みです。

同特別区では、製造・物流・食料安全保障・観光・エネルギー・デジタル経済・グリーン経済・金融・ビジネスサービス・教育・医療の11の経済セクターにおいて、第三国やシンガポールからの投資誘致を目指しています。今後5年間で50件の高付加価値プロジェクトの実現と2万人の熟練雇用の創出を目標としており、さらに今後10年間でプロジェクト数を100件まで拡大する計画です。

### ＜9つのフラッグシップゾーン＞

この構想の中心となるのは、産業、港湾、都市、観光、エネルギーなど、多様な機能を担う9つの「フラッグシップ・ゾーン」です。各ゾーンは、それぞれの地理的特性や既存インフラを活かし、JS-SEZ全体の成長を牽引する役割を果たしています。フラッグシップ・ゾーンの位置および概要については、下図をご参照ください。



Google Map より作成

A	ジョホールバル市中部	シンガポールに最も近く、越境経済・人流のハブ。鉄道、バスターミナル、フェリーターミナルが集まり、観光・金融・サービス業の集積地として再開発が進行中。
B	イスカンダル・プテリ	ジョホール州の行政センターであり、官庁街、州議会、州首相府が立地。国際教育都市「エデュシティ(EduCity)」が整備され、公園や水辺空間、低炭素型開発が進む環境配慮型都市。
C	タンジュン・ペラパス・タンジュンビン	タンテナ港のタンジュン・ペラパス港(PTP)を擁し、隣接するタンジュン・ビンには発電・エネルギー関連施設が整備された産業ゾーンが広がる。
D	パシルグダン	ジョホール州の主要工業地帯であり、港湾・重工業・化学産業の拠点。パシルグダン港を有する。
E	スナイ・スクダイ	四ナイ空港を中心とするゾーンで、航空宇宙、先端製造、物流の戦略的拠点。スナイ・ハイテクパークや物流センターが立地。
F	ステナク	ハイテク製造業とサステナブル産業の集積を目指す新興ゾーン。グリーン産業や次世代型製造業の拠点として注目されている。
G	フォレストシティー	海上埋立地に開発された未来型スマートシティで、金融サービスのハブを目指す。
H	ベンゲラン	東南アジア最大級の石油化学・精製コンプレックスが立地。
I	デサル	高級リゾートと観光特化型ゾーン。ゴルフ場、ビーチリゾート、国際会議場(MICE)などを備える。

報道内容を参照して作成

### ＜魅力的なインセンティブ＞

新規投資企業に対しては、魅力的なインセンティブも導入されています。その一つが「特別法人税制度」です。AI・量子コンピューティング・医療機器、航空宇宙製造・グローバルサービス拠点などの戦略分野に新規投資を行う企業には、法人税5%という特別優遇税率が最大15年間適用されます。これは、通常のマレーシア法人税率(24%)と比較して大幅に優遇されたものです。

また、JS-SEZ内の対象企業は、5年以内に行った資本支出の100%に対して投資税控除(ITA)を受けることが可能です。この控除額は、各課税年度の法定所得の最大100%まで相殺可能であり、非常に大きな減税効果が期待されます。

さらに、JS-SEZ内で勤務する対象の知識労働者には、10年間にわたり15%の特別個人所得税率が適用されます。これらの優遇税制措置は、2025年1月1日から2034年12月31日まで申請可能です。

なお、JSSEZが一つの経済圏として機能していくためには、良好なアクセスが必要です。今回のHAPEE MAILでは、ジョホール州とシンガポールを結ぶ都市鉄道の高速鉄道等についてもご紹介します。